

令和4年度 文教委員会資料②

【所管事務の調査（報告）】

川崎市平和館展示アップデートの取組について

資料1 川崎市平和館展示アップデート取組方針（概要版）

資料2 川崎市平和館展示アップデート取組方針

市 民 文 化 局

（令和5年2月2日）

趣 旨

- 平和館では、平成25(2013)年度に開館(平成4(1992)年)以来初となる常設展示の更新作業を実施し、平成26(2014)年4月から展示リニューアルを行った。
- 令和6(2024)年にはそれから10年目を迎えること、展示用機器の老朽化が進行し、映像コンテンツに経年による陳腐化が見受けられること等から、令和6(2024)年4月を目途に常設展示等のアップデートを行う。
- 令和3(2021)年度は、これまで蓄積した来館者アンケートに寄せられた利用者の声や学識者により構成される平和館展示検討懇談会等において聴取した意見内容を踏まえて、令和4(2022)年3月に展示更新の骨子を「川崎市平和館展示アップデートの方向性」としてまとめた。
- 令和4(2022)年度は、引き続き平和館展示検討懇談会等において意見を聴取し、展示アップデートのより具体的な取組内容について、「川崎市平和館展示アップデート取組方針」としてとりまとめた。
- 令和5(2023)年度は、この取組方針に基づき展示アップデート作業に取り組む。

I 平和館の事業概要

1 平和館の役割

- 「市民の平和に対する理解を深めるとともに、平和を希求する市民相互の交流及び平和活動を推進し、もって平和都市の創造と恒久平和の実現に寄与する」(平和館条例第1条)ために設置・運営されている。

2 展示の視点

- 平和館の展示の基本的テーマは、「平和」である。
- 「平和」をより現実的で具体的に当事者性を持って捉えるために、「平和」と「戦争」だけでなく、「平和」の実現を阻む要因である環境破壊・貧困・人権・差別などの「非平和」についても、展示を通じて市民のより深い学習を支援することは、展示の重要な役割である。

3 平和館の概要

(1) 沿革

- 昭和57(1982)年 6月 川崎市核兵器廃絶平和都市宣言告示
- 平成 4(1992)年 4月 開館
- 平成21(2009)年10月 拉致被害者家族支援「横田めぐみさん」コーナー設置
- 平成26(2014)年 4月 2階常設展示リニューアル

(2) 施設規模等

- 所在地 川崎市中原区木月住吉町33番1号
- 構造 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上2階、塔屋1階
- 延床面積 2,567.63㎡



平和館の正面外観

4 常設展示等の概要

- 展示等は「常設展示」と「その他コーナー」の2つに分かれる。
- 常設展示は、10のテーマごとに展示コーナーがあり、映像室が2室ある。
- 図書コーナーやDVDコーナーなど、その他コーナーが5つある。

II 展示アップデート取組内容

はじめに

- 平和館の常設展示や様々な企画は、「平和」・「非平和」を包括的に捉え発信していくという平和館の基本的なコンセプトに基づき、様々な「非平和」を提示している。常設展示を一周することで「平和」についての包括的な理解が促進されるコーナー配置となっている。
- より分かりやすく実感できる展示にすることや、解説や説明を最新の内容にすること、自分ごととして「平和」・「非平和」を考えてもらうための取組の推進、老朽化・陳腐化した映像機器の交換などの対応は必要であるが、展示の方向性・方法・内容について、現行の展示を大きく変える必要はないものと認識している。

1 全体の展示構成について

- 平和館は、「平和」とはすべての人間が暴力や環境破壊、貧困、差別に脅かされず安全・安心に生活できることであるとの考えのもと、戦争・武力紛争だけでなく平和的な生活を脅かす環境破壊、貧困、差別などについても開館当初から平和問題として展示してきた。
- 平成26(2014)年4月に行った常設展示リニューアルの際にも、このコンセプトは踏襲しながら、展示方法を「動画」中心から「解説パネル」を中心とした展示に変更した。
- その後も、展示のコンセプトを変更すべき事由は生じていないため、展示の方向性・方法・内容は基本的に維持しながら、次の課題に留意して展示のアップデートを行う。

- (1) 平和館ならではの展示内容の一層の充実
- (2) 子どもから大人まで幅広い世代への対応の推進
- (3) 学校教育との連携・協力の推進
- (4) 社会環境の変化を踏まえた展示内容の検討(脱炭素社会の実現、共生社会の推進など)
- (5) 展示用機器の老朽化、経年による既存の映像コンテンツの陳腐化への対応
- (6) QRコード等を用いた簡易なICT(情報通信技術)の活用(展示解説や多言語への対応など)

2 平和学的な視点をより明確化した展示

- より分かりやすい内容となるよう留意しつつ、平和学的な視点をより明確にすることで、来館者が、展示コーナー相互のつながりを容易に理解できるようアップデートを行う。

3 参加型アプローチの推進

- 学校などにおける平和学習の実践に積極的に活用されるよう、より一層の働きかけを行うとともに、これまで取り組んできた企画展や平和教育出前授業などの参加型のアプローチを維持・充実しながら推進する。
- アップデートに当たっては、企画展や参加型イベント、団体見学と平和学習に係るワークショップをパッケージで提供することなど、学校教育との連携や平和学習の実践に役立つ視点からも検討する。

4 「さわる」「やってみる」「みる」展示の追加

- 来館者が受け身にならずに、より自分のペースで考えることができるよう「ことば」(文字情報)による解説を重視した展示を行っている。しかし、その一方で低年齢層の来館者には難しい展示となっている部分もある。
- さわって、やってみる模型「核弾頭地球儀」や体験コーナー(防空壕)が子どもたちを引き付けていることも踏まえて、「さわる」もの、「やってみる」もの、「みる」ものを新たに展示する。

5 子どもから大人まで幅広い世代への対応

- 簡易なICT(情報通信技術)の活用によりQRコードを用いて、スマートフォンやタブレットから子ども向け展示解説や、多言語による展示解説を行うことを目指す。
- そのためにインターネット環境については、常設展示等の見学に対応できるWi-Fi環境の整備を検討する。

6 コーナーごとの具体的な取組内容

各コーナーにおけるアップデートの具体的な取組内容は次のとおり。

●常設展示

(1) 導入展示（平和を考える）

- 一つのコーナーとして連続性を持たせられるよう工夫する。たとえば、「平和ってなんだろう？」のような「問いかけ」形式でのパネルを置き、質問に答えながら進んで行くコンテンツとする。

(2) 川崎と戦争（パネル、映像、実物資料）

- 川崎と戦争の関わりを南部・北部の地域別特徴や戦争関連施設等の分布図によって解説したパネルを新たに設置して、包括的に理解しやすくする。
- 川崎大空襲について、来館者、特に子どもたちに「さわる」こと、「みる」ことを通じて実感し理解を深めってもらうため、実物大の焼夷弾（親爆弾）の模型を制作し、展示ケース内に設置する。ケース前には、実物と同じ重さの焼夷弾（子爆弾）の模型を制作し、来館者が自由に手に取って「さわられる」ようにする。

(3) 日本と戦争（パネル、映像、実物資料）

- 展示パネルの構成はよく練られていることから維持する。
- 映像については、パネルの内容との重なり感もあることから、戦時中の宣伝映像、たとえば、国民の戦意高揚に用いられた日本の「日本ニュース」とアメリカの「汝(なんじ)の敵、日本を知れ」を比較して見られるようにするなど、別の映像を展示することを目指す。

(4) 兵器と戦争（パネル、模型、映像）

- 展示パネルについては、石器時代にまで遡らず、近現代の兵器に絞り、「通常兵器」と「大量殺戮兵器」に大きく分け、特集として核兵器など非人道性が高い兵器を解説する。
- また、兵器に関わるお金の視点から解説するパネルの付加等も検討する。
- 核兵器については、「黒い雨」（原爆投下後に降った雨）による被曝の解説の付加を検討する。
- 「さわる」、「みる」展示の充実を図る。たとえば、広島・長崎に投下された原子爆弾の縮尺模型や対人地雷の断面模型などを新たに設置し、子どもたちが直感的にわかる展示を増やす。

(5) 戦争と人間（映像）

- 3面マルチビジョンを用いた横に長い画面となっているが、費用対効果も踏まえて、ワイド画面で1面のシンプルなハードウェア構成に変更する。
- 映像の内容も平成7（1995）年度にリメイクされた古いコンテンツのため、新たにアニメーションを活用した子どもから大人まで幅広い世代に親しみやすいコンテンツを制作し、既存のコンテンツと入れ替える。

(6) 国家による弾圧（パネル、映像）

- 展示パネルでは、トピックスで分かりやすく解説している。映像は、アウシュビッツ強制収容所生存者の証言など平和館でしか見られない独自の内容となっている。これらのことを踏まえて現行の展示を引き続き維持する。

(7) 現代の紛争（パネル、映像）

- 展示パネルは、解説に占める文字の情報量が多く、書籍のページのようなデザインになっている。文字と図・写真のバランスや、パネルと映像のバランスを見直すことで、より分かりやすい展示になるよう検討していく。また、展示内容を要約し展示パネルの分量を見直す。

(8) 武力紛争とメディア（パネル、映像、実物資料）

- 老朽化した映像モニターは撤去し、そのスペースを活用して情報の発信者・配信者・受信者のボーダレス化が進んだ現代の報道空間を解説する展示パネルを設置する。
- 戦時中の新聞や雑誌、米軍によって撒かれた伝単（宣伝ビラ）など、実物資料を展示することを検討する。

(9) さまざまな暴力（パネル、映像）

- 映像モニターにほとんどのコンテンツを収めているが、展示効果を高めるため、パネル展示の比率を増やす。
- 来館者に参加してもらうアプローチとして、来館者が考える「非平和」を展示できるボードの設置を行う。

(10) 平和への取り組み（パネル、映像、実物資料）

- 「核兵器廃絶平和都市宣言」について、1階ロビーに掲示されているプレートの移設などにより展示を行う。
- 子どもを含め、市民が行った平和をつくる取組を紹介する展示も検討する。
- 来館者に参加してもらうアプローチとして、来館者が平和のメッセージを寄せられるボードの設置を行う。

●その他コーナー

(11) 図書コーナー

- 来館者が読みたい本を自分で検索できる蔵書検索用のパソコンまたはタブレット端末の設置を検討する。

(12) DVDコーナー

- ブルーレイが再生できない仕様となっており、費用対効果も踏まえながら、視聴機器の交換を検討する。
- 戦争体験者インタビューなどを来館者が画面をタッチして視聴できる機能を付加することも検討する。

(13) 体験コーナー（防空壕）

- 特に小学生以下の子どもたちの心を引き付ける効果が高い展示であり、引き続き維持する。
- 展示されている実物資料には、2階の常設展示との重複も見られるため、展示品の入替えを検討する。

(14) 屋内広場（平和の広場）

- 屋内広場は、ガラス張りとなっており、中原平和公園に向けて大きく開口していることから、公園側から館内の様子が見えやすいことを活かして公園利用者の来館を促す仕掛けを設置する。
- 平和をイメージしたタイル絵を自由に作れる、マグネットが付けられる「大型ボード」を設置し来館につなげる。
- 平和に関するクイズに正解すると脱出できる、段ボール素材等でできた「迷路」を設置し親子連れや子どもたちを呼び込む。



(左) 「大型ボード」の設置イメージ



(右) 「迷路」の設置イメージ

III 作業の進め方・スケジュール

- 展示品の制作に当たっては、本方針の趣旨が反映するように、平和館展示検討懇談会委員でもある川崎市平和館運営委員会会長及び副会長が、平和館とともに監修を行う。各コーナーの展示コンテンツの詳細な内容については、必要に応じて専門的な知見を有する学識者に執筆や助言を依頼する。
- 作業に当たっては、施設の閉鎖は基本的に行わず、展示の公開を継続しながら作業を進める。

【スケジュール】

令和4(2022)年度 展示アップデート取組方針の策定

令和5(2023)年度 展示アップデート作業（展示品の制作・設置・移設等）

令和6(2024)年度 展示アップデート完了（令和6年4月予定）

川崎市平和館展示アップデート取組方針

川崎市平和館

Kawasaki Peace Museum

令和5（2023）年1月

趣 旨

川崎市平和館では、平成25(2013)年度に平成4(1992)年の開館以来初となる常設展示の更新作業を実施し、平成26(2014)年4月から展示リニューアルを行いました。現在の常設展示はリニューアルからまもなく9年が経過し令和6(2024)年度には10年目を迎えること、展示用機器の老朽化が進行しており、映像コンテンツに経年による陳腐化が見受けられること等から、令和6(2024)年4月を目途に常設展示等のアップデートができるよう、令和3(2021)年度には、これまで蓄積してきた利用者アンケートに寄せられた来館者の声や学識者で構成される平和館展示検討懇談会において聴取した意見内容を踏まえて、令和4(2022)年3月に展示更新の骨子について「川崎市平和館展示アップデートの方向性」としてまとめました。令和4(2022)年度は、引き続き平和館展示検討懇談会において意見を聴取し、展示アップデートのより具体的な取組内容について、「川崎市平和館展示アップデート取組方針」としてとりまとめました。令和5(2023)年度は、この取組方針に基づき展示アップデート作業に取り組んでまいります。

目 次

I	川崎市平和館の事業概要	1
1	川崎市平和館の役割	1
2	展示の視点	1
3	平和館の概要	1
	(1) 沿革	1
	(2) 施設規模等	1
	(3) 施設内容	2
	(4) 開館時間・休館日	2
	(5) 組織体制	2
4	常設展示等の概要	3
	●常設展示	
	(1) 導入展示（平和を考える）	3
	(2) 川崎と戦争	3
	(3) 日本と戦争	4
	(4) 兵器と戦争	5
	(5) 戦争と人間（映像室）	5
	(6) 国家による弾圧	5
	(7) 現代の紛争	6
	(8) 武力紛争とメディア	6
	(9) さまざまな暴力	6
	(10) 平和への取り組み	7
	●その他コーナー	
	(11) 図書コーナー	7
	(12) DVDコーナー	7
	(13) 拉致被害者家族支援「横田めぐみさん」コーナー	8
	(14) 体験コーナー（防空壕）	8
	(15) 屋内広場（平和の広場）	8
	常設展示等一覧	9
II	展示アップデート取組内容	10
	はじめに	10
1	全体の展示構成について	10
2	平和学的な視点をより明確化した展示	10
3	参加型アプローチの推進	11
4	「さわる」「やってみる」「みる」展示の追加	11
5	子どもから大人まで幅広い世代への対応	11
6	コーナーごとの具体的な取組内容	12
	(1) 導入展示（平和を考える）	12

(2) 川崎と戦争	13
(3) 日本と戦争	14
(4) 兵器と戦争	14
(5) 戦争と人間（映像室）	15
(6) 国家による弾圧	15
(7) 現代の紛争	15
(8) 武力紛争とメディア	15
(9) さまざまな暴力	16
(10) 平和への取り組み	17
(11) 図書コーナー	17
(12) DVDコーナー	18
(13) 体験コーナー（防空壕）	18
(14) 屋内広場（平和の広場）	18

Ⅲ 作業の進め方・スケジュール	19
-----------------	----

資料	20
----	----

1 平和館展示検討懇談会委員名簿	21
2 平和館展示検討懇談会開催運営等要綱	22
3 利用者アンケートに寄せられた来館者の声（平成30年～令和3年）	23

I 川崎市平和館の事業概要

1 川崎市平和館の役割

川崎市平和館（以下、「平和館」という。）は、「市民の平和に対する理解を深めるとともに、平和を希求する市民相互の交流及び平和活動を推進し、もって平和都市の創造と恒久平和の実現に寄与する」（川崎市平和館条例第1条）ために設置・運営されています。

2 展示の視点

平和館の展示の基本的テーマは、「平和」です。

「平和」は極めて重要ですが、具体的に理解し把握することが難しい抽象的な概念を含みます。「平和」をより現実的で具体的に当事者性を持って捉えるために、「平和」と「戦争」だけでなく、「平和」の実現を阻む要因である環境破壊・貧困・人権・差別などの「非平和」の問題についても、展示を通じて市民のより深い学習を支援することは、展示の重要な役割です。

3 平和館の概要

(1) 沿革

昭和57(1982)年	6月	川崎市核兵器廃絶平和都市宣言告示
昭和58(1983)年	6月	米陸軍出版センター跡地に中原平和公園の開園
平成2(1990)年	4月	中原平和公園内に平和館建築工事の着工
平成3(1991)年	12月	川崎市平和館条例の制定
平成4(1992)年	4月	開館
平成21(2009)年	10月	拉致被害者家族支援「横田めぐみさん」コーナー設置
平成26(2014)年	4月	2階常設展示リニューアル

(2) 施設規模等

所在地	川崎市中原区木月住吉町33番1号
構造	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上2階、塔屋1階
敷地面積	2,899.48㎡
建築面積	1,564.42㎡
延床面積	2,567.63㎡

(3) 施設内容

地下1階 収蔵室、機械室、電気室

1 階 体験コーナー（防空壕）、会議室、研修室、屋内広場、控室、児童室、事務室等

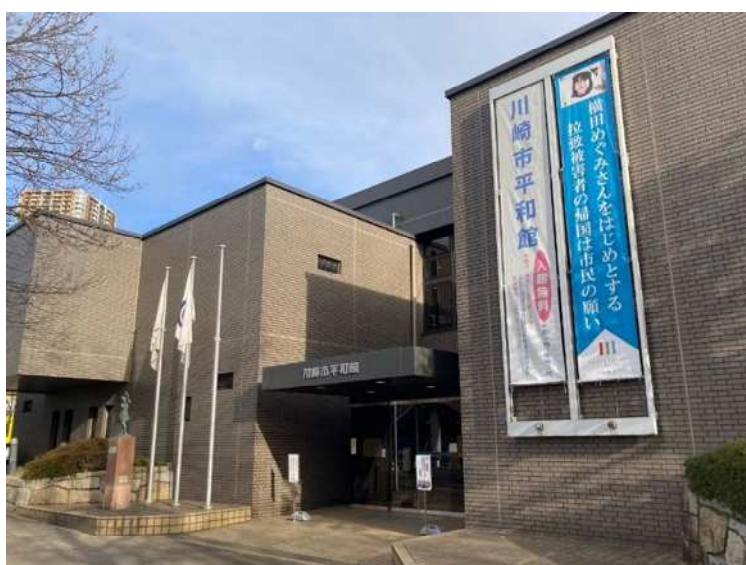
2 階 常設展示場、図書コーナー、DVDコーナー、拉致被害者家族支援「横田めぐみさん」コーナー

(4) 開館時間・休館日

開館時間	常設展示場（2階）	午前9時から午後5時まで
	第1会議室、第2会議室、第3会議室、研修室、屋内広場、控室（1階）	午前9時から午後9時30分まで
休館日	・毎週月曜日（国民の祝日に関する法律に規定する休日の場合は、その直後の平日）、年末年始（12月29日～1月3日） ・施設設備点検・定期清掃日（原則毎月第3火曜日）	

(5) 組織体制

	人数	備考
常勤（正規）職員	2名	館長1名、担当課長1名
再任用短時間職員	5名	・管理運営及び平和推進事業（4名） ・平和事業に係る調査研究（専門調査員1名）
会計年度任用職員		
委託職員	3名	・受付等の案内業務



平和館の正面外観

4 常設展示等の概要

平和館の展示等は「常設展示」と「その他コーナー」の2つに分かれます。

●常設展示

常設展示は、10のテーマごとに展示コーナーがあり、映像室が2室あります。

(1) 導入展示（平和を考える）

導入部では、戦争・武力紛争だけでなく、環境破壊や貧困、差別などさまざまな「非平和」を展示する常設展示の内容を理解しやすいように、平和な状態とは何かを、分かりやすく説明しています。また世界各地の平和の格言も紹介しています。2階通路の導入部の頭上には、落下する焼夷弾の模型を展示しています。



「平和ってなんだろう」
パネル展示



「平和の格言」パネル展示



落下する焼夷弾(模型)

(2) 川崎と戦争

ア パネル・映像・実物資料の展示

川崎大空襲や戦時中の川崎市民の生活について解説しています。市民からの寄贈された戦時下の日常生活に関わる実物資料も展示しています。



通路の映像モニター



川崎空襲パネル展示



生活用品等の実物資料

イ 川崎大空襲（映像室）

資料映像と体験者の証言で構成された川崎大空襲(昭和 20 年 4 月 15 日)の動画を上映しています（上映時間約 11 分。随時上映）。

また、映像室内には「海軍東京通信隊蟹ヶ谷分遣隊地下壕」を再現した模型や、戦時中の暮らしを再現した民家居間の模型も展示しています。



映像スクリーン



蟹ヶ谷分遣隊地下壕（模型）



戦時中の暮らし（模型）



焼夷弾を解説するパネル展示

ウ 川崎・被災直後と現在

空襲被害の状況を、被災した街のジオラマと空襲直後と現在の川崎の街を比較する映像により紹介しています。



ジオラマと映像モニター

(3) 日本と戦争

日本と戦争の関わりについて、明治維新から終戦・日本国憲法の制定までを説明しています。戦争に関わる市民からの寄贈品された実物資料の展示や、映像モニターで関連映像を視聴できます。



パネル展示



実物資料



映像モニター

(4) 兵器と戦争

発達とともに、人的・物的被害を拡大させてきた通常兵器や核兵器について解説しています。核兵器の破壊力を視覚的に表した、さわって、やってみる模型「核弾頭地球儀」も設置しています。



パネル展示



核弾頭地球儀 (模型)



映像モニター (タッチパネル)

(5) 戦争と人間 (映像室)

平和問題を包括的に理解していただくための動画「戦争、そしてもうひとつの戦争」、「ひとつの地球・ふたつの世界」を上映しています。(上映時間約15分。随時上映)



映像室入口



映像スクリーン

(6) 国家による弾圧

平和を脅かすのは、戦争だけではありません。統治者が一方的に人々の安全や安心を脅かすことがあります。そのような国家による弾圧について説明しています。映像モニターでは、20世紀以降に起きた主なジェノサイド(注)等を解説しています。

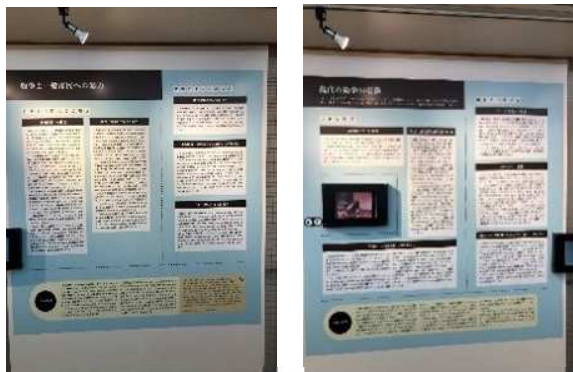
※(注) ジェノサイド…ナチスドイツによるユダヤ人の迫害など特定の集団をあらゆる意味において消し去ることを目的とした行為のこと。



パネル展示・映像モニター

(7) 現代の紛争

第2次世界大戦後から現在までの武力紛争について、時代や地域ごとに説明しています。紛争の行為者ではない、弱者への被害についても解説しています。



パネル展示・映像タブレット（タッチパネル）

(8) 武力紛争とメディア

マスメディアと武力紛争との関わりや、報道機関だけではないさまざまなメディアの紛争や暴力における役割を提示しています。



パネル展示・フォトフレーム



映像モニター（タッチパネル）・フォトフレーム

(9) ささまざまな暴力

平和を脅かす代表的な要素である、環境破壊、貧困、差別について、映像モニターではタッチパネルを使い具体的な事例を使って説明しています。



パネル展示



映像モニター（タッチパネル）

(10) 平和への取り組み

平和を壊すさまざまな問題に対しては、政府や国際機関だけでなく、多様な主体が問題の解決・緩和に取り組んでいます。このコーナーでは、さまざまな平和問題に対する取組を紹介しています。



パネル展示



映像モニター

●その他コーナー

常設展示以外にコーナーが5つあります。

(11) 図書コーナー

戦争と平和に関する図書の閲覧や貸出しを行っています。蔵書は約1万2千冊あります。貸出しは1回に2冊まで、貸出期間は貸出日から14日以内です。



書架・閲覧席

(12) DVDコーナー

戦争と平和に関するDVDコーナーを視聴することができます。所蔵DVDは約150枚あります。



DVD コーナー入口



DVD 視聴ブース

(13) 拉致被害者家族支援「横田めぐみさん」コーナー

拉致問題の一日も早い解決に向けて、拉致問題について理解を深め、関心を持ち続けていただくことを目的として、啓発コーナーを設けています。横田めぐみさんの写真を展示しており、関連図書の閲覧、DVDの視聴ができます。このコーナーについては市民文化局人権・男女共同参画室において企画展示を行っています。

(14) 体験コーナー（防空壕）

川崎市内では戦時中に多く防空壕がつくられました。このコーナーでは横穴式防空壕を再現しています。防空壕内には爆弾の落下音や炸裂音、閃光で空襲の様子を再現したジオラマも展示しています。



防空壕内部



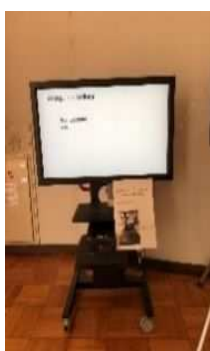
格子の中の実物資料

(15) 屋内広場（平和の広場）

ステージや観覧席があり平和についてのさまざまな催しや、川崎大空襲記録展、原爆展・特別展、企画展の会場等に利用されています。



川崎大空襲記録展オープニングイベントの様子



映像モニター(アニメ「おれたちのビー玉」等が随時視聴できる)



屋内広場の東側と南側はガラス張りとなっていて、中原平和公園に向けて大きく開口している

常設展示等一覧

●常設展示

- (1) 導入展示（平和を考える）
- (2) 川崎と戦争
 - ア 川崎と戦争
 - イ 川崎大空襲（映像室）
 - ウ 川崎・被災直後と現在
- (3) 日本と戦争
- (4) 兵器と戦争
- (5) 戦争と人間（映像室）
- (6) 国家による弾圧
- (7) 現代の紛争
- (8) 武力紛争とメディア
- (9) さまざまな暴力
- (10) 平和への取り組み

●その他コーナー

- (11) 図書コーナー
- (12) DVDコーナー
- (13) 拉致被害者家族支援「横田めぐみさん」コーナー（人権・男女共同参画室企画展示）
- (14) 体験コーナー（防空壕）
- (15) 屋内広場（平和の広場）

Ⅱ 展示アップデート取組内容

はじめに

平和館の常設展示や様々な企画は、「平和」・「非平和」を包括的に捉え発信していくという平和館の基本的なコンセプトに基づき、様々な「非平和」を提示しています。常設展示を一周することで「平和」についての包括的な理解が促進されるコーナー配置となっています。子どもから大人まで幅広い世代に対応できるよう、より分かりやすく実感できる展示にすることや、展示パネルの解説や説明を最新の内容にすること、来館者に自分ごととして「平和」・「非平和」を考えてもらうための取組の推進、老朽化・陳腐化した映像機器の交換などの対応は必要ですが、展示の方向性・方法・内容について、現行の展示を大きく変える必要はないものと認識しています。

1 全体の展示構成について

平和館は、「平和」とはすべての人間が暴力や環境破壊、貧困、差別に脅かされず安全・安心に生活できることであるとの考えのもと、戦争・武力紛争だけでなく平和的な生活を脅かす環境破壊、貧困、差別などについても開館当初から平和問題として展示してきました。平成26(2014)年4月に行った常設展示リニューアルの際にも、このコンセプトは踏襲しながら、展示方法を「動画」中心の展示から「解説パネル」を中心とした展示に変更しました。リニューアル後においても展示のコンセプトを変更すべき事由は生じていないことから、展示の方向性・方法・内容は基本的に維持しながら、次の課題に留意して平和啓発・平和学習の施設として展示のアップデートを行います。

- (1) 平和館ならではの展示内容の一層の充実
- (2) 子どもから大人まで幅広い世代への対応の推進
- (3) 学校教育との連携・協力の推進
- (4) 社会環境の変化を踏まえた展示内容の検討（脱炭素社会の実現、共生社会の推進など）
- (5) 展示用機器の老朽化、経年による既存の映像コンテンツの陳腐化への対応
- (6) QRコード等を用いた簡易なICT（情報通信技術）の活用（展示解説や多言語への対応など）

2 平和学的な視点をより明確化した展示

常設展示を含め平和館の展示は、戦争・武力紛争だけに留まらず、環境破壊・貧困・差別などのさまざまな「非平和」を展示する平和学的な視点を意識したデザインとなっています。このような視点は本市が「多様性」を「可能性」とし、さまざまな地域の出身者や価値観が異なる人たちが川崎でともに暮らし、働き、そして互いに認め合い、支え合い、

高め合ってきたことが川崎を暮らしやすい、働きやすい地域として成長させてきたこととも合致します。

今回の常設展示のアップデートに際しては、より分かりやすい内容となるよう留意しつつ、平和学的な視点をより明確にすることで、来館者が、展示コーナー相互のつながりを容易に理解できるようアップデートを行います。

3 参加型アプローチの推進

平和館が平和啓発や平和学習といった平和施策を進めていく拠点として、学校などにおける平和学習の実践に積極的に活用されるよう、より一層の働きかけを行うとともに、これまで取り組んできた企画展や平和教育出前授業などの参加型のアプローチを維持・充実しながら推進します。アップデートに当たっては、企画展や参加型イベント、団体見学と平和学習に係るワークショップをパッケージで提供することなど、学校教育との連携や平和学習の実践に役立てる視点からも検討します。

4 「さわる」「やってみる」「みる」展示の追加

平成26(2014)年4月のリニューアル前の展示方法は、基本的には動画を流す映像中心の展示でした。リニューアルに当たっては、動画中心の展示をやめ、来館者が受け身にならずに、より自分のペースで考えることができるよう「ことば」(文字情報)による解説を重視した展示を行うことにしました。しかし、その一方で低年齢層の来館者には難しい展示となっている部分もあります。

常設展示のアップデートに際しては、「兵器と戦争」コーナーにある、さわって、やってみる模型「核弾頭地球儀」や体験コーナー(防空壕)が子どもたちを引き付けていることも踏まえて、「さわる」もの、「やってみる」もの、「みる」ものを新たに展示することにより、来館者の理解がより深められるようにします。また、新たな写真や動画素材も可能な限り展示できるよう検討します。

5 子どもから大人まで幅広い世代への対応

小学校低学年の来館者に対応するものとして、ふりがなを振った「持ち帰りシート」を配布するなどの対応をしていますが、現状の常設展示の解説は、低年齢層の来館者には難しい内容を含んでいます。また、日本語を母語としない来館者への対応としては、英語、韓国・朝鮮語、中国語の音声ガイド機の貸出しを行っていますが、解説文レベルでの対応は行えていない状況にあります。

このことを踏まえ、子どもから大人まで幅広い世代への対応を図るため、簡易なICT(情報通信技術)の活用によりQRコードを用いて、スマートフォンやタブレットから子ども向け展示解説を見られるようにすることや、多言語による展示解説を行うことを、ニーズ等も考慮しながら目指していきます。そのために必須となるインターネット環境に

については、常設展示等の見学に対応できる Wi-Fi 環境の整備を検討します。

6 コーナーごとの具体的な取組内容

各コーナーにおけるアップデートの具体的な取組内容は、次のとおりです。

●常設展示

(1) 導入展示（平和を考える）

現在、導入展示は階段踊り場の「平和ってなんだろう？」パネルと2階通路の「平和の格言」パネルから構成されています。しかし、それぞれのパネルの設置箇所が離れていることや、天井に吊るされた落下する焼夷弾模型の下に「平和の格言」が配置されているなど、次のコーナーである「川崎と戦争」コーナーとの切り分けが曖昧な配置になっています。このことを解決するため、1階階段壁面から階段踊り場を経由し2階階段壁面までを導入展示のエリアとすることで、展示に連続性を持たせられるよう工夫します。導入展示の前半には、来館者が歩きながら読める程度の文字数の展示パネルを複数配置します。たとえば、「平和ってなんだろう?」、「平和じゃないってなんだろう?」のような「問いかけ」形式のパネルを置き、質問形式で進んで行くコンテンツとします。導入展示の後半は、「平和の格言」パネルをまとめて展示するレイアウトにします。

(現況)



(アップデート・イメージ)



1階から階段踊り場に向かう階段壁面に歩きながら読める平和に関する「問いかけ」パネルを展示

(2) 川崎と戦争（パネル、模型、映像、実物資料）

ア パネル・模型・映像・実物資料の展示

現在2階通路途中の壁面に設置されている「川崎と戦争」コーナーのコーナーサインの設置場所を2階通路入口の壁面に移動させます。コーナーサインの移動により、空いたスペースには、川崎と戦争の関わりを南部・北部の地域別特徴や戦争関連施設等の分布図によって解説したパネルを新たに設置して、来館者が川崎と戦争の関わりを包括的に理解しやすくします。現在、「平和への格言」が設置されている箇所には、空襲で被災した市内の写真を配置します。また、通路床面には、爆撃されたエリアを視覚的に示した市内地図をカーペット等の床材にプリントして敷きます。

川崎大空襲について、来館者、特に子どもたちに「さわる」こと、「みる」ことを通じて実感し理解を深めてもらうため、実物大の「収束焼夷弾（親爆弾）の模型」を制作し、ウォールケース（壁面展示ケース）内に設置します。それにあわせて現在映像室内にある「焼夷弾解説パネル」も移設します。またウォールケース前には、実物と同じ重さの「焼夷弾（子爆弾）の模型」を制作し、来館者が自由に手に取って「さわられる」ようにします。

現在、展示されている実物資料についても、ストーリー性が持たせられるように整理を行います。たとえば、最初のウォールケースでは、戦時中の代用品や国民服等の生活用品と空襲で被災した物品を展示し、2番目のウォールケースでは、日常生活において戦争遂行が優先されていたことを示す戦時債券や家庭菜園の教本等を展示します。なお、戦時下の日常生活との関連が薄い実物資料「三八式歩兵銃」については関連の深い「日本と戦争」コーナーに移動します。

(現況)



(アップデート・イメージ)



左側ケース内に収束焼夷弾(親爆弾)の模型を展示、ケース前には「さわられる」焼夷弾(子爆弾)の模型を展示



制作する焼夷弾(子爆弾)模型のイメージ

2階通路入口にコーナーサインを移設、通路床面には市内の爆撃エリアを視覚的に示した地図を展示

イ 映像室

川崎大空襲の動画は引き続き上映しますが、老朽化した映像機器は交換します。

また、「戦時中の暮らし」（民家居間の模型）を解説するパネルの衝立は、現在の簡易なものから^{けんろう}堅牢なものに改修します。

ウ 川崎・被災直後と現在

老朽化した映像モニター等の機器交換を行います。また、空襲直後と対比する「現在の街の様子」の映像が20年以上前（1998年）のものであることから、最新の映像にアップデートします。

（3）日本と戦争（パネル、映像、実物資料）

展示パネルの構成はよく練られていることから維持します。2台の映像モニターから流れる映像については、パネルの内容との重なり感もあることから、戦時中の宣伝映像、たとえば、国民の戦意高揚に用いられた日本の「日本ニュース」とアメリカの「^{なんじ}汝の敵、日本を知れ」（Know Your Enemy: Japan）を比較して見られるようにするなど、別の映像を展示することを目指します。

（4）兵器と戦争（パネル、模型、映像）

展示パネルについては、人を殺傷する道具としての兵器を解説していますが、石器時代にまで遡って解説する人類史のスケールでの展示となっています。効果的な展示を行うため、兵器については近現代の兵器に絞り、「通常兵器」と「大量殺戮兵器」に大きく分け、特集として核兵器など非人道性が高い兵器を解説するなどの整理を行います。また、兵器に関わるお金の視点から解説するパネルを付加するとともに、兵器を運用する場所について解説を付加することも検討します。核兵器については、近年の状況も踏まえ「黒い雨」（原子爆弾投下後に降った粘り気のある大粒の雨で放射性降下物の一種）による被曝の解説を付加することも検討していきます。

現在展示している「核弾頭地球儀」は「さわる」展示として子どもたちを中心に好評であることから、このコーナーでの「さわる」、「みる」展示の充実を図ります。たとえば、広島・長崎に投下された原子爆弾（リトルボーイ、ファットマン）の縮尺模型や対人地雷の断面模型などを新たに設置し、子どもたちが直感的にわかる展示を増やします。映像モニターの映像は、平成19（2007）年度以前に作成したもののため、その後の社会状況の変化等も踏まえ精査やアップデートを行います。

(現況)



奥に核弾頭地球儀を展示

(アップデート・イメージ)



手前に原子爆弾の模型、真ん中に核弾頭地球儀、奥側に対人地雷の断面模型を展示

(5) 戦争と人間 (映像)

「平和」・「非平和」を包括的に捉え発信する平和館の基本的なコンセプトを映像で示すコンテンツです。映像の画面は3面マルチビジョンを用いた横に長い画面となっていますが、現在では標準的な画面の縦横比自体がワイド化していることから、3面マルチビジョンを維持する必要性は薄くなっています。映像装置も老朽化していることから、費用対効果も踏まえて、ワイド画面で1面のシンプルなハードウェア構成に変更します。また、映像の内容も平成7(1995)年度にリメイクされた古いコンテンツのため、新たにアニメーションを活用した子どもから大人まで幅広い世代により一層親しみやすいコンテンツを制作し、既存のコンテンツと入れ替えます。

(6) 国家による弾圧 (パネル、映像)

展示パネルでは、統治者が一方的に人々の安全や安心を脅かす弾圧等についてトピックスで分かりやすく解説しています。映像は、アウシュビッツ強制収容所生存者の証言など平和館でしか見られない独自の内容となっています。これらのことを踏まえて現行の展示を引き続き維持します。

(7) 現代の紛争 (パネル、映像)

このコーナーの展示パネルは、解説に占める文字の情報量が多く、書籍のページのようなデザインになっています。文字と図・写真のバランスや、パネルと映像のバランスを見直すことで、より分かりやすい展示になるよう検討していきます。また、武器を使用した平和の破壊という視点から、展示内容を要約し展示パネルの分量を見直します。その結果、生み出されたスペースは、隣接するさまざまな暴力コーナーの充実に使用します。

(8) 武力紛争とメディア (パネル、映像、実物資料)

このコーナーは、武力紛争や対立を煽るツールになることもあれば、平和を構築するツールにもなるメディアを取上げるユニークなコーナーになっていることから、展

示内容の趣旨は維持します。さらに分かりやすく、見やすくするため、プロパガンダ（注1）、リテラシー（注2）、フェイクニュース（虚偽情報）の配信など「兵器としてのメディア」等のキーワードを使って解説する内容を精査します。

現在の展示方法は「展示パネル」・「フォトフレーム」・「映像モニター」という構成になっていますが、「フォトフレーム」で流れているコンテンツの一部を「展示パネル」に移行させるなど、どの内容がどの展示方法に適しているのかを整理します。また、現在の「フォトフレーム」の画面サイズは小さいことから大型のものに変更します。老朽化した「映像モニター」は撤去し、そのスペースを活用して情報の発信者・配信者・受信者のボーダレス化が進んだ現代の報道空間を解説する展示パネルを設置します。また、現在このコーナーには実物資料の展示はありませんが、戦時中の新聞や雑誌、米軍によって撒かれた伝単（宣伝ビラ）など、メディア関連の実物資料を新たにローケース（覗き型ケース）に展示することを検討していきます。

※（注1）プロパガンダ…特定の思想によって個人や集団の行動を誘導しようとする宣伝・扇動のこと。

※（注2）リテラシー …ある特定の分野に関する知識や理解、活用する能力のこと。

（現況）



「展示パネル」・「フォトフレーム」・「映像モニター」という構成で展示

（アップデート・イメージ）



「展示パネル」・「フォトフレーム」・「ローケース」という構成で展示

（9）さまざまな暴力（パネル、映像）

現在は映像モニターの中にほとんどのコンテンツを収める展示方法をとっていますが、展示効果を高めるため、パネル展示の比率を増やします。あわせて、武力行使を伴わない環境破壊・貧困・差別等の問題がなぜ平和問題なのか、平和学的な解釈を交えながら総論的に解説を行うとともに、非平和としての環境破壊・貧困、差別の問題について、それぞれのパートで平和学的な解説を加えます。また、地球環境・貧困・差別に対する本市の取組につながる非平和や、SDGsを平和学的な問題意識から提示するなど、社会状況の変化や本市の取組も踏まえ、展示内容のアップデートや充実を検討していきます。また、来館者に参加してもらうアプローチとして、来館者が考える非平和を展示できるボードの設置を行います。

(現況)



映像モニターの中にほとんどのコンテンツを収めて展示

(アップデート・イメージ)



パネル展示の比率を増やして展示

(10) 平和への取り組み (パネル、映像、実物資料)

「核兵器廃絶平和都市宣言」について、1階ロビーに掲示されているプレートの移設などにより展示を行います。また、子どもを含め、市民が行った平和をつくる取組を紹介する展示も検討していきます。また、来館者に参加してもらうアプローチとして、たとえば「私にとって平和とは」、「平和をつくるために私ができること」など、来館者が平和のメッセージを寄せられるボードの設置を行います。

脱炭素行動宣言等の脱炭素戦略の推進、かわさきパラムーブメントが掲げる共生社会の実現、差別のない人権尊重のまちづくりの推進等の本市の取組も展示します。

映像モニターの映像には、古い内容も含まれていることから、環境問題への多様な主体の取組など近年の動向も踏まえたアップデートを目指します。

また、貧困のない公正な社会をつくるための平和への取組の一つである、フェアトレード(公平・公正な取引)の成果を実物資料として展示することを検討していきます。

このコーナーの最後には、平和館の企画展示や取組をお知らせする場所も新たに設置します。

(現況)



「核兵器廃絶平和都市宣言」は1階ロビーに掲示

(アップデート・イメージ)



「核兵器廃絶平和都市宣言」を移設などにより展示

●その他コーナー

(11) 図書コーナー

図書については、常設展示のコーナーに対応した分類・配架を行っていますが、利用者の利便性を向上させるため、費用対効果も踏まえながら、来館者が読みたい本を

自分で検索できる蔵書検索用のパソコンまたはタブレット端末の設置を検討していきます。

(12) DVDコーナー

ディスプレイ、DVDプレイヤーはともに老朽化し、ブルーレイの映像コンテンツが再生できない仕様となっています。費用対効果も踏まえながら、視聴機器の交換を検討していきます。あわせて、戦争体験者インタビューなどの動画コンテンツについては、来館者がディスプレイの画面をタッチして視聴できる機能を付加することも検討していきます。

(13) 体験コーナー（防空壕）

特に小学生以下の子どもたちの心を引き付ける効果が高い展示であり、引き続き維持しますが、格子の中に展示されている実物資料には、2階の常設展示との重複も見られるため、精査を行い、展示品の入替えを検討していきます。

(14) 屋内広場（平和の広場）

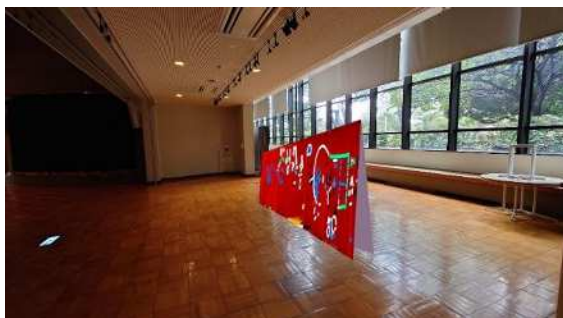
平和館の1階にある屋内広場は、東側と南側がガラス張りとなっており、中原平和公園に向けて大きく開口していることから、公園側から館内の様子がうかがえる^{あつら}えとなっています。このことを活かして公園利用者にアピールして来館を促す仕掛けの一つとして2つの遊具を設置します。

1つ目としては、平和をイメージしたタイル絵を自由に作れる、マグネットが付けられる「大型ボード」を設置し来館につなげます。

2つ目としては、平和に関するクイズに正解すると脱出できる、段ボール素材等でできた「迷路」を設置し親子連れや子どもたちを呼び込みます。

なお、屋内広場は、川崎大空襲記録展などの会場にもなるため、設置する遊具については、企画展示を行う際に簡単に移動や解体・組立ができるとともに、利用の安全性が確保できるものにします。

(アップデート・イメージ)



平和をイメージしたタイル絵を自由に作れる「大型ボード」を新たに設置



平和に関するクイズに正解すると脱出できる「迷路」を新たに設置

Ⅲ 作業の進め方・スケジュール

令和6(2024)年4月を目途に展示アップデートが行えるよう、令和5(2023)年度中にパネルや映像などの制作を行います。実際の展示品の制作に当たっては、本方針の趣旨が反映するように、平和館展示検討懇談会委員でもある川崎市平和館運営委員会会長及び副会長が、平和館とともに監修を行います。また、各コーナーの展示コンテンツの詳細な内容については、必要に応じて専門的な知見を有する学識者に執筆や助言を依頼します。また、作業に当たっては、施設の閉鎖は基本的に行わず、展示の公開を継続しながら作業を進めます。

スケジュール

令和4(2022)年度 展示アップデート取組方針の策定

令和5(2023)年度 展示アップデート作業(展示品の制作・設置・移設等)

令和6(2024)年度 展示アップデート完了(令和6年4月予定)

資料

- 1 平和館展示検討懇談会委員名簿
- 2 平和館展示検討懇談会開催運営等要綱
- 3 利用者アンケートに寄せられた来館者の声（平成30年～令和3年）

平和館展示検討懇談会委員名簿

氏名	所属	分野
石田 淳	東京大学大学院総合文化研究科教授	国際政治
堀 芳枝	早稲田大学社会科学総合学術院教授	人権・ジェンダー
大串 和雄	東京大学大学院法学政治学研究科教授	平和研究
松井 ケティ	清泉女子大学文学部教授	平和教育
井上 俊夫	川崎市立東橋中学校非常勤講師	学校教育
小川 輝光	神奈川学園中学高等学校教諭	学校教育との連携
高部 優子	株式会社ビープロダクション代表取締役 明星大学人文学部兼任講師	展示方法

平和館展示検討懇談会開催運営等要綱

制定 令和3年11月10日（局長決裁）

（趣旨）

第1条 この要綱は、平和館展示検討懇談会（以下「懇談会」という。）の運営に関し、必要な基本事項を定める。

（目的）

第2条 市民文化局長は平和館の展示を検討するにあたり、次に掲げる事項について、懇談会の委員の意見を求める。

- （1）平和館の展示に関する事。
- （2）その他必要な事項に関する事。

（委員）

第3条 懇談会の委員は、学識経験者等の専門的知見を有する者に就任を依頼する。

（開催期間）

第4条 懇談会の開催期間は、令和5年3月31日までとし、必要に応じて開催することとする。

（庶務）

第5条 懇談会の庶務は、市民文化局人権・男女共同参画室平和館において処理する。

（その他）

第6条 この要綱に定めるもののほか、懇談会の開催運営等に関し必要な事項は、市民文化局長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年11月10日から施行する。

利用者アンケートに寄せられた来館者の声(平成30(2018)年～令和3(2021)年)

全体に対する意見

(利用者アンケートに寄せられた小学生の声)

- ・小さな子どもも知っていくならば、ふりがなをつけたりした方がむずかしい言葉も読みやすいと思います。戦争についてたくさん知れるのはうれしいけれど、分かりやすくみじかめに説明してあるコーナーとかがあるとより分かりやすいと思います。
- ・個人的にはもう少しジャーナリストについて知りたい。
- ・もう少し映像を見られる場所を増やす。ばくだんのばくはつする面積(1発)。
- ・説明が分かりやすかったです。

(利用者アンケートに寄せられた中学生の声)

～中学校1年生のアイデア～

- ・映像で、音や写真から戦争の悲惨さ、戦争というものについてわかったが、様々な世代の方に見てもらうために、もう少し見やすいアニメーションにするといいと思う。
- ・もっと魅力的にするためにはもうちょっと映像やものを増やすといいと思います。
- ・ガラス張りの展示の説明の字をもう少し大きくするといいと思います。説明が読みにくかったです。
- ・3つの画面があるスクリーンのところで、同じ映像を流す時に、3つの画面でタイムラグがあり、3つのうち2つが同じで1つが違くと、どこに集中していいのかわからなかったりして見にくかったので、全体に1つの映像を映し出した方が良くと思います。
- ・字ばかりではなく写真を多く取り入れる。係の人が説明してくれてとてもわかりやすく話を聞くことができました。
- ・もっと戦争中のことが分かる模型があったら、戦時中のことが分かりやすく理解もできるようになると思います。
- ・クイズなどを展示してもいいと思いました。
- ・全体的に資料など見やすかったです。
- ・もうちょっと字を大きくしてほしいです。

～中学2年生のアイデア～

- ・常設展示の「川崎と戦争」では、当時の物品があり、分かりやすかったです。時間の関係もありましたが、初めて知ることが多く、もっとじっくり見てみたいものがたくさんありました。
- ・実物にふれることができる展示や、物の名前だけでなく、説明を横に書く、インタビューを1人ずつまとめるなどすると、さらに魅力的な展示になると思います。
- ・テーマごとに分かれていて、分かりやすかったので、良いと思います。
- ・戦時使っていた道具をもっと詳しく説明する部屋があつたらいいなと思いました。
- ・映像で伝えることで、より意識しなければならないと思う気持ちが強くなった。
- ・大きいモニターの方のシアターの椅子が特徴的で、背もたれがなかったので、そこを改善すれば、小さな子どもでも楽しむことができると思った。その他は特になく、とても分かりやすく見ごたえのある展示でした。
- ・大きいモニターの方の映像で、もう少し文字を大きくしてもらった方が見やすく、後方の席だと見にくく、写真のみの理解になってしまうと思いました。しかし「平和」について、よく考えさせられるものばかりで、魅力的な展示だったと思いました。
- ・「平和」と一言で表せない程のこの言葉の重みと今のかけがえのない日々が「平和」であることを改めて実感できる良い機会になった。また、兵器などを持たない「戦争」もとても考えさせられたので、これらについての説明ブースがもっとあればと思った。
- ・映像を新しくする。
- ・今のままでも平和の重要性を考えさせられると思います。
- ・インタビューの映像で、後ろの席に座ると音声聞き取りづらかったので、字幕などをつけてもらえると、内容がわかりやすくなるかなと思います。
- ・戦争時の怖さを、自分自身が実際に体験できるようにする。分かりやすい映像で理解しやすかったです。ありがとうございました。
- ・戦時中の食べ物を触れられたり、服とかを着れたりできたら楽しいなと感じました。
- ・各展示物がとても分かりやすかったが、それぞれの説明が少し足りないような気がしたから、それがあるとよりよくなると思う。
- ・実際に触れられるようにする、今の物とその時のものを比べられるようにする。

～中学3年生のアイデア～

- ・体験できるコーナーが増えると良いと思います。
- ・色々な国のことわざの意味が書いてあると、もっと分かりやすくなると思った。
- ・見ている時に実際に戦時下で使われていた時の様子が分かりにくかったので、リアリティを求めて実際の使い方などの説明をもっと詳しく書いた方が良いと思う。
- ・今回、施設に来て一番に目についたのが、焼夷弾が実物大であるもので、火が波にゆられてる感じや、レンガの建物など、映像では広がらない世界が体験できた。また子どもは、文字と写真を並べたものよりも、模型などの方が本質的に興味をひくと思うから、もっと増やすと興味と理解が深まると思った。
- ・実物があったり、ビデオや説明書きなどですごくわかりやすかったです。あと、頭上から焼夷弾が降ってくるような模型があるなど、今戦争を体験していない私達でも恐いなと実感できて今までただ戦争があり、こういうことがありましたと学んだだけだったので、より現実味のある学習ができました。すごく良い施設だなと思ったので、常時行っている展示以外でも、イベントなども行ってたくさんの人に来てもらえたらいいと思いました。

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・「兵器と戦争」以降がむずかしかった。
- ・学校で戦争について勉強しています。とても深く考えるきっかけを作ってくれる展示でした。
- ・途中から文字量が多くなってしまったこと以外は、とても進んで行きやすい展示でした！トピックの分けかたがとても分かりやすいです。
- ・情報は多いが図や絵が少なく、読む気が起きない。子供はすぐあきらむ。体験コーナーを充実させてほしい。
- ・映像など良く工夫されていると思いました。視点が良く、先の戦争は市民も大変だった。二度と繰り返してはならないだけでなく、「どうして」という視点と、それがもっとグローバルなことと思える様な良い展示になっていると思いました。
- ・説明文がありすぎて読み切れず、ざっとみただけです。でもこんなすばらしいものを作り上げていたなんて、びっくりでした。
- ・何か偏った意見の主張ではなく、ひしひしと自分から湧き起る感情にひたることが鑑賞と同時にできて非常に勉強になった。
- ・長崎の平和記念公園の展示はとても恐怖をあおるような物が多く、その場に居られなかったおぼえがあります。しかし、川崎市平和館は学習をメインで戦争への展示がある印象でした。怖い写真ばかりではなく、文字で訴えられるものが多くありました。
- ・小中学生にもわかりやすい展示が増えるとありがたいです。
- ・2階のパネル展示なかなかよいです。が、文章が長くて読みきれません。
- ・太平洋戦争、核兵器などにフォーカスした平和祈念施設は国内にも多数ありますが、包括に平和の問題を扱っていることに感銘を受けました。中々、一般利用者に理解を得ること、説明を行うことは大変でしょうが、頑張ってください。
- ・大学の授業で小学校社会の模擬授業をするので、学ばさせていただきました。川崎市の当時の様子を知り、とても驚きました。動画や体験型の展示があり、分かりやすかったです。
- ・第2次世界大戦だけにとどまらず、現在の争いもしっかり表示されていて素晴らしい。いわゆる戦争だけでなく、その他の人を不幸にするものに対する取組みがすごい。
- ・平和、差別などにとりくんでいる展示、素晴らしい。
- ・ビデオの内容が充実していて真剣に見ようとしたら半日かかる。3週連続来てようやく全部カバーできました。パネルの内容も充実していると思います。
- ・膨大な展示説明で、作成のご苦勞を察しました。なかなか消化しきれませんが。
- ・視点がはっきりとしていて、すばらしい展示でした。今、このような展示・解説ができていくこと自体、大変な世の中になってしまっている中で、勇気をもらいました。
- ・横浜市にはない施設なので興味がありました。後半パネル資料、文書量多過ぎます。
- ・戦争・平和、そして現代社会の諸問題がていねいに説明されており、わかりやすい。展示板のリニューアルもあって、常に国際的問題を伝えていこうという姿勢が伝わってきた。

- ・情報が豊富で、1度では見るできないくらいです。とても意義のある展示だと思いました。
- ・こわがらず、しっかりと大事な問題について展示されていて、感動しました。このまま、がんばって下さい。
- ・どのコーナーも以前より整理され見やすくなった。
- ・ここは貧困や環境なども平和教育の一部ととらえていて、いいことだと思った。
- ・良かったです。平和館はあまり知られていないので、こんな素敵な場所を広めていただきたい。
- ・直接来館するのがベストはいうまでもありませんが、足を向けさせるような宣伝媒体（冊子、ホームページなど）をご検討いただければと思います。
- ・来館を待つだけでは市民から遠い。とても素晴らしい内容なだけに、積極的な発信をして欲しいです。
- ・もっと多くの人に来てもらえるようPRすべき。駅前にポスターや展示会のお知らせを公示すべきだ。
- ・オリエンテーリングのマップ？を作って平和館を回れるのいいですね。
- ・真の平和にむけてすばらしい内容を伝える展示でした。平和の灯を守るため、平和館の役割を全力で応援したいです。
- ・川崎市の限られた財源での運営は厳しく大変と思いますが、今後も継続して頂ければと思います。
- ・平和についていろいろ考えさせられました。来てよかったです。これからも、川崎市平和館が平和のためにも存続して行ってほしいと思います。
- ・川崎の戦争について知ることができて良かったです。この資料館は平和を作るために自分達は何ができるか考えさせられました。
- ・入場料無料で質の高い情報を提供してくださってありがとうございます。現在大学生で人権に関することを中心に学んでいます。とても勉強になりました。
- ・無料でこれだけのものを見せられるとは！川崎市はすごい！
- ・こういう場があちこちでできるといいです。税金をちゃんと使っていると思います。企画者の哲学が感じられます。
- ・充実した展示に感銘を受けました。これほどの内容のある資料館は、他の自治体にはないと思います。また来たいと思います。
- ・大変すばらしい。子供たち、学生たちに当館見学を必修としたい位です。元、中高大学で教えていた者として強く感じます。
- ・全体を通して平和をまっすぐ正面から見据えたすばらしい展示だと感じました。きちんと施設を守っていただきたいです。

- ・この様にすばらしい施設があったとは知りませんでした。皆さんに訪れて欲しいです。
- ・川崎市のさまざまな取り組みを見させてもらいました。機会があれば、またこちらに来て学びを深めていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・米軍から返還された土地の跡にこのような施設を残された先人に感謝です。生きた社会科の何よりの勉強だと思いました。

(1) 導入展示 (平和を考える)

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・”平和”の定義をきちんとされている資料館はあまりないので興味深かったです。戦争にとどまらず、大きなスケールで考えさせられる良い時間でした。
- ・平和という概念について定義し、共通認識としようという意図がよく伝わり、良いと思いました。

(2) 川崎と戦争

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・川崎大空襲の話は普段あまり聞かなかったので、とても勉強になりました。
- ・川崎は軍事都市ということを知っていたので、工場は海浜部に集中していると思っていたら、南武線沿いに多くあったことが意外だった。
- ・母やおばから聞いていた川崎大空襲のことを知りたくなり来館しました。実際の写真や体験談が心に残りました。
- ・川崎大空襲については、おそらく亡くなっていると思われる方々の貴重なインタビューVTRが生の声として印象に残った。

(3) 日本と戦争

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・普段ずっと心にひっかかっていた両方の世界を改めて考えることができました。
- ・日本人が自ら直視できない自国民が外国で行ってしまったことを、なぜ行うに至ったか、またその心理の変化、正当化の理屈を理解することができました。
- ・10年前に比べて展示に武力行使や戦争へのかかわりの項目が入ってきた。年々展示物の内容の密度が高くなっている。
- ・当時のニュース映画の上映も欲しい（昭和館のように）
- ・何となくしかわかっていなかった事が、しっかり解説してあった。

(4) 兵器と戦争

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・今まで沢山の資料館に行きましたが、特にここでは核弾頭にすごく興味を持ちました。今ある数は1万7000個も残っており、500個爆発×6回で世界が核に覆われることを知っておどろきました。
- ・身近にないものを見ることが出来て、多くのことを学ぶことができた。

(5) 戦争と人間（映像室）

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・2つの対比から平和とは何かについて考えさせられた。
- ・3面スクリーンの向かって左側の映像が、他の2つより遅れていたのが残念だった。
- ・映像を見て、一緒の世界に住んでいるのになぜこんなにも違った生き方になってしまうのか、とても見ていると心苦しく思ったから。
- ・戦争と人間（大型画面で2本の映画上映）は少し古いかと思います。このころから更に状況が変わっている（悪化している？）ので、リニューアルされると嬉しいです。コロナはじめ最新の状況にあわせたリニューアル？
- ・戦争と人間のところの2本の動画は内容が抽象的であり、作成も古いものと思われ残念だった。

(6) 国家による弾圧

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・大量虐殺に胸がザワついた。
- ・アウシュビッツの体験者の映像が印象に残りました。
- ・現在、世界で起こっている悲惨な事実や過去のナチスのユダヤ人虐殺を写真や解説で知り、人間の恐ろしさを感じた。
- ・ユダヤ人の人の話のビデオを見ました。ここに来ていなかったら聞けなかったことなので良かったです。
- ・書物などで断片的には知っていたが、まとめて整理してあるのでわかり易くてよかった。更に学んでみたいと思う。

(7) 現代の紛争

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・公正な立場で展示等がなされていると思いました。
- ・民族同士の戦い・民族の人権を失っていく様子・平常心を失うようにしくまれた社会の問題・女性の性差別の現実など、内容が充実していました。一日見学しても見終わらない感じがしました。
- ・展示が充実していて、地方都市の資料館では高位のレベル◎。現に起こっている戦争の展示ももっと写真でわかりやすく、説明文も小学6年生を目標に書いてくれると better かな。

(8) 武力紛争とメディア

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・ベトナムの河での親子の写真での後ろの男の子の目、救いの目か、抗議の目か、胸を刺されま
- す。
- ・メディアの大切さを実感した。性被害も一面的に見てはいけないと思った。
- ・武力紛争をメディアがあおっているのはとても怖いと思いました。

(9) さまざまな暴力

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・他にはない展示だと思います。
- ・平和の危機、戦争中でなくても水、食べ物、住み家、衣服が不十分であることは、「平和ではない」という見解は今までなかった。
- ・平和をこわすもの、行為が戦争、紛争だけではないことが展示からよくわかりましたので。
- ・差別が気になりました。人々はみんな同じなのに暴力をふるわれたりするなんてひどいなと思いました。
- ・戦争という直接的な暴力に留まらず、戦争という形態を取らない様々な暴力について考える材料になった。大学の授業でヨハン・ガルトゥングの構造的暴力について学んでいたので、とても参考になった。
- ・今の問題、世界の問題、自分たちの問題につなげているところがすばらしい。
- ・戦争や紛争がないことを平和というのではないと知った。

(10) 平和への取り組み

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・私は平和への取り組みについて具体的に知らなかったので、大変興味深かったです。
- ・全体的に興味を持った。すべて自分にかかわっていることだから。
- ・とても1回の来館では読み切れませんでした。
- ・難しい問題、大切な問題を本質をとらえながらコンパクトにまとめてあってよい。
- ・SDGsの取り組みなどは、私たち若い世代が取り組んでいかなければならない内容であるからだ。
- ・平和とは戦争がないことだけではないことが勉強になった。

(11) 図書コーナー

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・図書コーナーでよく本を借りています。平和・戦争・人権・人道などに特化しているのでいい。静かで新聞もゆっくり読めます。もっと本を増やしてほしい。もっと多くの人にここを知ってほしい。宣伝を…。
- ・図書コーナーも整理整頓され、見やすくなった。
- ・興味のある図書が多い。

(12) DVDコーナー

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・映像やアニメだと、戦争の様子がよく分かり、平和の大切さがよく分かる。
- ・映像で見ることによって、より現状が伝わってきた。

(13) 体験コーナー（防空壕）

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・体験コーナーでは戦争を体験した方の気持ちを知りました。私の祖母は戦争を体験したので、気持ちを知れて良かったです。
- ・すごくリアルで怖かった。
- ・防空壕の様子のイメージがよく分かりました。怖かったです。
- ・防空壕はもっと大きいと思っていたけど、意外と小さくて道が長かった。
- ・私は中に入って、まず驚いたのは中の暗さです。また、音です。暗闇の中、外ではおそろしい音がし、ずっと不安なまま中には小さい子もいるのに…。私は、それにとっても驚きました。
- ・体験コーナーでは実際の雰囲気を感じられました。

(14) 屋内広場（平和の広場）

(利用者アンケートに寄せられた来館者の声)

- ・アニメをやっており子供もみました。
- ・いろいろな人がどんなめにあっていたか分かって、戦争のおそろしさを知れたから。
- ・昔の戦争のことや、爆弾のことが分かりました。
- ・以前来館した時には展示されていなかった中学生による模写（岡本太郎）が飾られており、岡本太郎美術館に最近来館させていただいたこともあり、とても見ごたえがありました。

川崎市平和館展示アップデート取組方針

発行 令和5(2023)年1月
編集 川崎市平和館
(川崎市市民文化局)
住所 〒211-0021 川崎市中原区木月住吉町33番1号
電話 044-433-0171
FAX 044-433-0232



KAWASAKI SDGs

A blue silhouette map of the Kawasaki region, showing the city's outline and major districts.

川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。